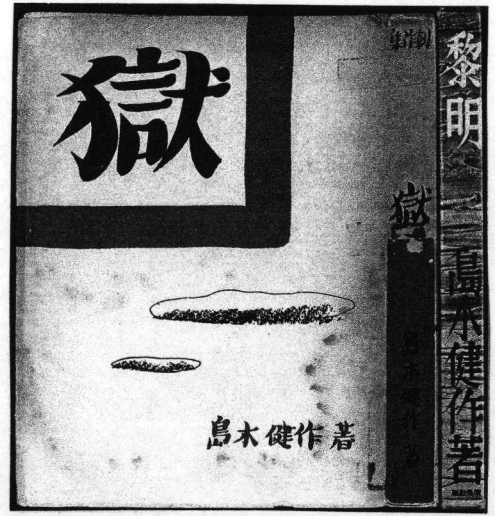
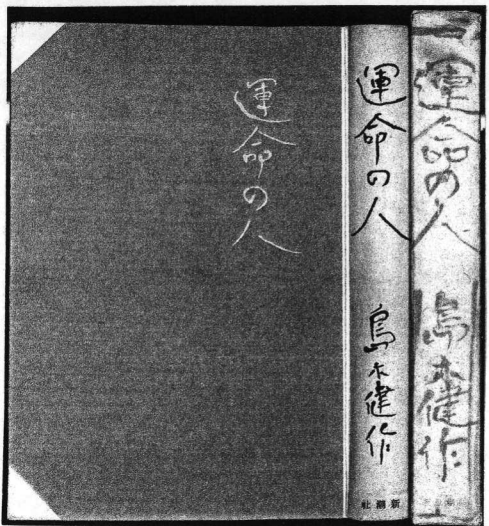


島木健作 （健作） 小説家。明治二十六年九月七日北海道札幌生れ、昭和二十一年八月十七日歿（一九三二—四五）。本名朝倉新雄。筆名朝倉大涯、K・A等。大正十五年東北帝國大學中退。農民運動に加はり、日本共産黨に入黨し、昭和二年檢舉せられて轉向。出所後獄中體驗記などの小説を發表。十二年和田博等と「農民文學懇話會」を結成。

著書『獄』（昭和九年十月、二十一日チウカ社。再刊、十二年五月、二十一日鳥谷書店）、『われらの成果』
 新鋭傑作十七人集』（合著、昭和九年十月、二十一日二書房）、『純文學のたのび』（合著、田邊茂一編、昭和十年五月、二十日紀伊國屋出版部）
 『紀伊國屋パンフレット』（、『黎明』（昭和十年十月十日改造社）、



『二十年代』（昭和十一年十一月、二十日竹村書房）、『第一義』（昭和十一年十一月、二十日人民社）、『再建』（昭和十一年六月一日中央公論社）、『續生活の探求』（昭和十二年六月十七日河出書房『書多』下り）『長篇小説叢書』（、『隨筆と小品』（昭和十四年八月、二十八日河出書房）、『第一義の道』（昭和十四年十一月五日新潮社『昭和名作選集』）、『滿洲紀行』（昭和十五年四月八日創元社）、『人間の復活』全二冊（前篇、昭和十五年五月二十五日、後篇、十六年十月、二十日中央公論社）、『或る作家の手記』（昭和十五年十一月、二十日創元社）、『島木健作集』（昭和十六年五月十四日改造社『新日本文學全集』）、『運命の入り』（昭和十六年九月八日新潮社）、『地方生



・軍華保護院編、昭和十七年十一月十五日時代社「時代社奉八版」）、

『滿洲國創作集・2』^{康徳九年} 昭和十七年版』（共編、昭和十九年二月二十日

創元社）、『礎』（昭和十九年十一月十一日新潮社）、『出發まゝ』

（昭和二十一年二月一日新潮社）、『黎明（農民小説傑作選）』（合

著、昭和二十一年七月十五日赤坂書店）、『赫谷日記』（昭和二十

一年七月二十日文化評論社）、『土地』（昭和二十一年七月二十日創

元社「百花文庫」）、『島木健作全集』（島木健作全集刊行會編、第

一卷・昭和二十二年六月二十日、第十卷・二十四年十一月二十日、第

二卷・二十五年二月十日、第十四卷・五月二十日創元社）、『赤蛙』

（昭和二十二年十一月十日筑摩書房）、『煙』（昭和二十四年二月二

十一日新潮社「新潮文庫」）、『獄』（昭和二十五年二月五日新潮社

「新潮文庫」）、『生活の探求』全一冊（第一部、第二部・昭和二十

五年十一月二十日新潮社「新潮文庫」）、『生活の探求・赤蛙』（昭

和二十七年十一月二十日筑摩書房「現代日本各作選」）、『雪の白・

蒲団』（武田麟太郎合著、昭和四十四年五月二十日麥書房「雨の白文

庫・現代日本文學
昭和戦前編」）等。

活』（昭和十六年十一月二十日創

元社）、『軍人援護文藝作品集・第

一輯』（合著、昭和十七年二月二十

日軍人保護院編刊）、『滿洲國

創作集・1』^{康徳八年} 昭和十六年版』（共編、

昭和十七年六月二十日創元社）、『第

二の戰場』主題小説八人集』（合著

文獻、山笠原亮著 岡島木健作 註
代作 藤野野矢 註 (一) 等。
昭和四十年十月、千代田法書院、一近